



# GREEN LETTER

## グリーンレター

**Vol.313**

2023/6/01

今月の一枚

今月のイベント

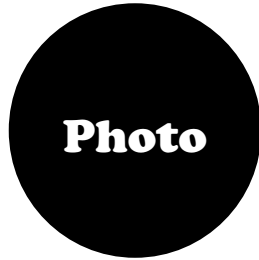
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 美幌峠観光のはじまり
02. 『せんそうがやってきた日』



今月の一枚



## 「元町2遺跡の擦文土器」

写真・文／八重柏誠

元町2遺跡の消失住居跡から出土した、立派な擦文土器をご紹介します。<sup>かめがた</sup>甕形の器形で、くびれた部分には、<sup>おうそうちんせん</sup>横走沈線模様と3段の列点、土器の上部には格子目状の模様が施されています。全体の形、模様が整ったとても美しい土器ですね。

# Event. 今月のイベント

特別展「カメラは見た！動物たちの素顔」 ～10月22日（日）

プチ工房「風鈴」 6月16日（金）,17日（土）

博物館講座「記憶する絵」 6月24日（土）

# Information. 参加者募集

プチ工房「風鈴」

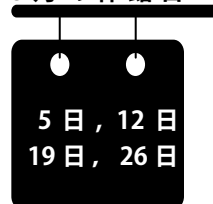
●6/16（金）,17（土）10:00-12:00, 14:00-16:00 ※自由に入室可能,作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1階 講座室 ●参加費 300円（2個で1セット） ●町田善康（美幌博物館） ●どなたでも,小学3年生以下は保護者の同伴が必要 ●申込み不要

博物館講座「記憶する絵」（芸術編）

●6/24（土）9:30-12:00 ●美幌博物館 1階 講座室 ●参加費 100円 ●渡辺貞之氏（アートホール東洲館館長,画家） ●美幌博物館へ電話申込み（-6/23）。対象は中学生～一般（小学3年生以下は保護者同伴）。定員 24名で締切。

※発熱がある,あるいは体調が優れない方ので参加はお控えください。各イベントは,内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により,一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上,ご参加ください。

## 5月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

## 01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

# 美幌峠観光のはじまり

写真／美幌博物館収蔵資料・文／八重柏誠



**町**制施行 100 周年ということもあって、町の歴史についての問い合わせや企画が多く、あらためて古い写真や動画を見る機会が多い年となっています。昭和初期に撮影された動画フィルムには、未公開の貴重な映像が数多く残されているのですが、その中に、美幌峠観光をしているものが含まれていました。

美幌峠は大正 9（1920）年に、美幌と弟子屈を結ぶ道路として開通しました。当時は、馬車 1 台がやっと通れるほどの細い道だったといえます。大正時代末期になると、峠からの眺望の良さが噂となり、町内の学校や青年団の遠足先としても、選ばれるようになりました。昭和 2（1927）年、鉄道大臣小川平吉が美幌峠の視察に来ることになり、大臣が乗る自動車が行くことができるように、道路の補修が行われると、自動車による美幌峠観光がさ

かんになりました。昭和 9（1934）年、美幌峠が阿寒国立公園として指定されると、美幌駅は国立公園への玄関口として、観光客で賑わうようになったといえます。

動画は、昭和 10（1935）年頃に撮影されたもので、掲載画像は美幌峠に向かう道の様子。車 1 台分の幅しかない砂利道で、乗合自動車が、すれ違う場面が映し出されています。国立公園指定後、観光客の増加とともに、美幌町内の自動車が増えたと言われていきます。動画からも、美幌峠を乗合自動車が行き交っていた様子が伝わってきます。当時の自動車は、よく故障したともいいますが、そんな自動車に乗ってでも、見に行きたい美幌峠だったのでしょう。峠の眺望の良さは、今も昔も変わらず、人々を魅了し続けているのですね。

## 02 GREEN COLUMN グリーンコラム

# 『せんそうが やってきた日』

写真・文／早田真莉子



た だいま、美幌町図書館にて絵本『せんそうがやってきた日』（鈴木出版）のパネル展を開催しています。本パネル展は、9月23日の美幌博物館講座（芸術編）の講師を担当される、美幌町出身の英米児童文学翻訳家 ながともけいこ 長友恵子さんの発案により、実現しました。

『せんそうがやってきた日』は日本では2020年に出版されましたが、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻後、子どもたちに「難民」や「戦争」を伝える絵本のひとつとして注目されています。

本書では、ある日突然やってきた“せんそう”によって、傷つき、ひとりぼっちになってしまった少女という、重いテーマを扱っています。心無い差別を受けるショッキングな場面もありますが、少女の心情が、飾り気のない率直な表現で愛らしく描かれてお

り、読者の胸にじんわりと響く作品となっています。

訳者あとがきで長友さんは、「安全な日本にいるわたしたちができる支援とはなんでしょうか？この絵本を読んだことが、あなたの支援の第一歩になります。」と、絵本を通して、つらく悲しい状況に置かれている人々に想いをはせる大切さを訴えています。

これまで『せんそうがやってきた日』のパネル展は、各地の図書館や書店などで、6月20日の「世界難民の日」や、8月15日の「終戦の日」と重なる時期に開催されてきました。今回のパネル展も、6月7日に図書館での展示が終了した後は、7月1日から博物館で開催されるロビー展「すごい標本！すごい資料！」にて、収蔵美術資料とともに再度展示されます。ロビー展は10月9日まで開催しますので、ぜひこの機会にご覧ください。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・早田真莉子

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / [museum@town.bihoro.hokkaido.jp](mailto:museum@town.bihoro.hokkaido.jp)

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



.....

コラムに掲載した「イマジン碑」の写真は、ニューヨークを訪れたときのものです。この碑の元となった曲「イマジン」で、ジョン・レノンは平和な世界を“想像すること”の大切さを歌いました。なかなか終息しない戦争に、悲しみが募るばかりです。(早)